



古代の安曇野に触れる

1/22 豊科郷土博物館こたつ講座

こたつで語らうように気軽に地域の歴史や文化などについて学ぶ、豊科郷土博物館のこたつ講座（全6回）が1月22日、同館で開催されました。この日は、市民など約60人が聴講。伝説「八面大王」の紙人形劇を鑑賞した後、関わりがあるとされる穂高有明の魏石鬼窟、耳塚両古墳について、百瀬新治館長が、史実や発掘調査の状況、他の遺跡との関わりなどを交え話しました。百瀬さんは「古墳の謎解きも含め、伝説を楽しみ、後世に伝えていきませんか」と参加者に呼び掛けていました。



家族で楽しく体を動かす

1/22 ファミリースポーツレストラン

誰でも気軽に軽スポーツを楽しむことができる「第11回ファミリースポーツレストラン」（スポネット常念主催）が1月22日、堀金総合体育館で行われました。当日は23チーム55人が参加。囲碁ボールや輪投げなどさまざまなメニューを家族で一緒に楽しみました。

初めて参加した牧野新太くん（堀金烏川）は「ボウリングでうまく倒せたのが楽しかった。来年も参加したいです」と話してくれました。

地元食材を使い 世代を超えた交流

1/20 農業女子会 in 安曇野

安曇野の農業に関わる女性たちが、地元の農産物を使用した料理を作りながら交流する「第12回安曇野の農業とともに生きる女性たちの交流会～農業女子会 in 安曇野～」(農村生活マイスター協会安曇野支部主催)が1月20日、堀金公民館で開催されました。

当日は、初めて南安曇農業高校の生徒も参加し、会員が作った干し柿を素材にした料理や生徒が考案した安曇野りんごのスイーツなどを協力して調理しました。完成後は、料理を囲みながら調理のコツや活動内容について意見交換し、世代を超えた交流を楽しみました。

参加した南安曇農業高校2年の藤森ひかるさんは「調理方法のアドバイスやメニューのアイデアをもらい参考になりました。今後の活動に生かしていきたいです」と話しました。



街ににぎわい 各地で恒例のあめ市

1/22 明科「あめ市」・2/5「穂高あめ市」

恒例のあめ市が市内各地で行われました。

このうち明科地域では、「あめ市」（明科区など主催）が1月21日と22日の両日、明科駅前公園で行われ、福だるまなどが販売されました。22日には餅つきや、上押野区の獅子舞も奉納され、奉納後は、一年の無病息災を願い、訪れた皆さんの頭を獅子が囃んで回る姿も見られました。

また、穂高地域では、「穂高あめ市」(穂高地区活性化総合プロジェクト主催)が2月5日、穂高神社北神苑を主会場に開催されました。会場では、ふるまい餅や福あめ投げなどの催しのほか、地元の若者たちによる「健壯団」が神輿を担ぎ、商売繁盛などを願い、穂高地域の等々力町区、穂高町区の区内を練り歩きました。



大きな声で「鬼は外、福は内」

2/3 西穂高保育園・豆まき

1年の無病息災を祈る豆まきが節分の2月3日、西穂高保育園で行われ、214人の園児たちの元気な掛け声が響きました。

園児たちは、遊戯室に集まり園長先生から節分にちなんだ話を聞いたり、ダンスをしたりした後、クラスに戻り各自の升に炒った豆を分けて鬼退治の準備をしました。年長組のテラスから鬼が現れると、大きな声で「鬼は外、福は内」と言いながら豆を鬼に投げつけ、鬼が帰っていくと喜びや安堵の声が上がりました。田中樹生くんは「鬼は怖かったけれど、やっつけることができて良かったです」と話してくれました。



地域の芸術・歴史に触れる

1/26 あづみの学校ミュージアム

美術館・博物館が所蔵する作品や資料を持ち寄り、小中学校に展示する「あづみの学校ミュージアム」（市美術館博物館連携事業実行委員会主催）が市内2校で行われました。1月26日に市内8施設の学芸員らが訪れた豊科北中学校では、生徒たちが学芸員から作品の解説を聞き、地域の歴史や芸術に触れていました。

宮下桂太朗くん（豊科北中3年）は、美術館や博物館に行く機会がなかったことに触れ、「作品に触れる良い機会でした。大胆な作品が印象に残りました」と話しました。